第４回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会　議事録

日　　時	令和４年３月７日（月）9 時 30 分～12 時 00 分
場　　所	エル・パーク仙台　６階　スタジオホール
出 席 委 員	岩間友希委員、姥浦道生委員、太田伸志委員、大庭克己委員、 小島博仁委員、馬場正尊委員（座長）
仙 台 市 出 席 者	浅野吉昌まちづくり政策局次長、岩城利宏財政局理事兼次長、 反畑勇樹都市整備局次長、佐藤秀樹建設局次長
基本設計受託事業者	小林一文氏、千葉学氏
事　務　局	菅原大助仙台市財政局本庁舎建替準備室長、その他職員

１　開　会

事務局　ただいまより、第４回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会を開会する。本日の検討会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、マスクの着用や入室時の手指消毒をお願いしているほか、傍聴や報道機関の皆様は、受付での健康状態の確認と、お名前とともにご連絡先を提供いただいている。また、会議中は室内空調による常時換気を行うほか、休憩中は扉を開放し換気を行う。

２　委員等紹介

事務局　お手元の資料１をもって委員のご紹介に代えさせていただく。馬場委員については、第１回の検討会で座長に選任されているため、引き続き座長をお願いしたい。なお、菅野委員については本日欠席となっている。また、仙台市からも前回同様に４局の次長が参加するほか、基本設計受託事業者である石本建築事務所・千葉学建築計画事務所設計共同企業体からも、オンラインで小林氏、千葉氏に参加いただいている。

３－１　プレゼンテーション・前半（要旨のみ）

・オリエンテーションとして、第３回検討会までの議論の内容について馬場座長より説明。また、本日の検討会のポイントとして、①目指すべき姿、②低層部エリアの自由な活用、③多様な市民・企業等が参加しやすい仕組み、④プラットフォームのイメージ、⑤この場所における理想的な公民連携の形、以上の５点について議論を交え、検討会としての意見を整理していきたいという点を説明した。

・資料３「新本庁舎低層部等の一体的利活用」のうち（１）～（３）について、事務局（仙台市本庁舎建替準備室＿菅原室長）より説明。
勾当台・定禅寺通エリアの現状・課題を踏まえ、一体的利活用の目的を説明。また、勾当台・定禅寺通エリアビジョンや仙台市役所本庁舎建替基本計画、本検討会からの意見を踏まえ、一体的利活用のコンセプトと当該エリアで目指すべき姿についてプレゼンを行った。

３－２　ディスカッション・前半

馬場座長　前半は、主にコンセプトや目指すべき姿についてご意見をいただきたい。

小島委員　コンセプト、目指すべき姿について質問したい。今まで検討会で議論してきた３つのラボ機能（Policy Lab、Cross Media Lab、Laving Lab）も踏まえて検討されているかと思うが、Cross Media Lab の表現は資料のどの部分のイメージなのか。コンセプトのエリアブランディングの記載で、「エリアでテーマ性を持った活動を実施・発信」とあるがその部分なのか。

事務局　これまでの議論で、Cross Media Lab といった情報発信機能の必要性が挙げられてきた。現時点ではコンセプトということもあり、エリアブランディングの媒体や方法等については明確にしていないが、今後は、ここに記載している情報発信機能として、媒体等も含めて検討していきたい。

馬場座長　ブランディングやメディア戦略という点について、太田委員の得意分野と推測する。ぜひご意見いただきたい。

太田委員　通常、場所ごとにイベント内容を考えるが、それぞれの場所を移動する過程も記憶に残る重要な時間であると考える。ブランディングという観点から、場所ごとに似たようなテーマのイベントを同時に実施するということだけではなく、歩道や街並みなど、大きなテーマを共有しながら間を繋ぐアイデアがあってもいいのではないかと感じた。
例えば、丸の内では道路上に様々なアーティストの作品を展示しているが、丸の内仲通りエリアを１つの美術館と捉え、ストリートギャラリー専用のウェブサイトや伝え方といったものを整理している。このように、場所と場所の間の余白も「場所」として捉え、一つのメディアになり得るという可能性を認識し、市民にアピールしていくことができれば、より一層ダイナミックなことができるのではないか。

馬場座長　空いている時間を埋めるような場所という点と、場所自体がメディアを持っているという発想を頂いた。

姥浦委員　Ｐ12 の一体的利活用の中心エリアについて、つなぎ横丁は連携するエリアとしているが、市民広場といかに一体的に使うかということだと思うので、検討会の意見としては、一体的利活用の中心エリアに入れるということでいかがか。また、コンセプトと目指すべき姿の関係性が見えづらいように感じる。大切な「チャレンジ」という言葉がコンセプトにはあるが、目指すべき姿には記載されておらず、目指すべき姿の４点にもレベル感があるように感じた。コンセプトと目指すべき姿の関係性について、どのように整理したら効果的か、太田委員の考えをお聞きしたい。

馬場委員　まずは、市より一体的利活用の中心エリアの点についてご意見いただき、その後、太田委員よりご意見いただきたい。

事務局　本市としても、つなぎ横丁は歩行者動線の強化等の観点から重要だと認識しているが、連携するエリアとしている定禅寺通の沿道部分でもあるため、取扱いについて

は、引き続き検討してまいりたい。

馬場座長　次年度以降の議論になるかと考えるが、概念的に一体的利活用エリアとするエリアと、行政区画の関係上、運営主体が責任をもつエリアが一致しない可能性もある。関係性については、今後検討していくという整理で進めて良いか。

姥浦委員　将来的に許認可等を一体的に管理していくと考えた際、つなぎ横丁までは一体的にやるべきだと考える。

馬場座長　では、検討会としては、一体的利活用の中心エリアにつなぎ横丁も含め、一体でマネジメントしていくべきという考えでまとめることとする。コンセプトと目指すべき姿の見せ方について、太田委員はいかがか。

太田委員　目指すべき姿へ近づくためには、まずビジョンがあり、それを達成するためにやらなければならないミッションがあるという順番だと思っている。スティーブ・ジョブズが、「ミッションなんて捨てよう。その代わり、ビジョンを用意しよう。その方が、みんな、やる気になる。」という言葉を残していたり、Apple 社が経営戦略の指針として「Think different.(人と違うことを考えよう)」という言葉を大切にしていたりする。目指すべきビジョンをまずは強く共有して、そこから各部門、各プロフェッショナルが施策に落とすことで、具体的になってくるのではないか。

馬場委員　仙台市における「Think different.(人と違うことを考えよう)」に該当するキーワードは、過去の議論から考えると「チャレンジ」なのではないか。ブランディングと密接に関係してくるため、次のステップかとは思うが、「チャレンジする市役所」を実現するために、どうすべきなのか、何をチャレンジするのか、という点が目指すべき姿に描かれてくるのだろう。

太田委員　ビジョンが「チャレンジ」なのだとすれば、目指すべき姿に記載している内容が、可能な範囲内での実施目標なのか、他都市と比較しても仙台市が初めての事例となり得るような挑戦的なことなのか、各部門のプロフェッショナルたちが本当にチャレンジと呼ぶに値する取り組みを目指しているのかという観点からも精度を高めていくことができれば、仙台市らしいオリジナリティが見えてくるのではないか。

岩間委員　一体的利活用の中心エリアにつなぎ横丁を入れるという点について、つなぎ横丁は、エリアブランディングの肝になると考えるので共感できる。また、定禅寺通のようにケヤキの綺麗な並木通りもあれば、勾当台公園市民広場のようにイベントに適した場所もあるなど、街の中心に、毛色の違う公共空間がこれだけ集まっているところはないと思う。庁舎、道路、公園など、色の違う様々な公共の空間が合わさっていて、これらの一体的利活用に向けて窓口を整理したり、市民と一緒に一体的利活用を実現していくことができれば、それ自体がブランディングに繋がり、チャレンジであると感じる。

馬場座長　ニューヨークのブライアントパークは、ニューヨークの目的地になるという点をミッションステイトメントにしている。このエリアは杜の都を象徴する場所であり、こんなに良い場所に多くの公共空間があるということを踏まえると、仙台の風景の象徴となるという点が文面に強く出てもいいのではないかと感じた。これらの議論

を文面に加味してもらえればと思う。

大庭委員　今までいただいたご意見を整理することで、仙台ならではの目指すべき姿になるのではないかと感じた。また、「周辺が繋がり、賑わいが波及する」という点や「まちの回遊性向上」といった点がよく整理されている。日常的というキーワードも大事だと考えており、日常的に市民が「あそこに行けば何かある」と集まる場所になれば理想と考える。

馬場座長　エリアの利活用ではイベントの時だけのことを考えがちだが、「日常的」など良いキーワードが入っており、いかに日常を大事にしていくかという点が感じられる。また、目指すべき姿で手続きの簡素化という点に触れているというところも良いと感じた。前半のディスカッションでは皆さんから様々な意見を頂いた、それらを踏まえ、目指すべき姿をブラッシュアップしていけたら良いのではないかと感じた。

３－３　プレゼンテーション・後半（要旨のみ）

・資料３「新本庁舎低層部等の一体的利活用」のうち（４）～（７）について、事務局（仙台市本庁舎建替準備室＿菅原室長）より説明。

・（４）について、これまでの検討会やサウンディング型市場調査の意見をふまえ、一体的利活用等に向けた地域団体等の多様な主体が参画できるプラットフォームの必要性を説明。また、事業者とプラットフォームの定義づけの整理や事業者が実施する運営・維持管理のイメージ等を説明。
事業者とエリア利活用のルールづくりを行うプラットフォームの関係性について、他都市の事例を紹介し、双方の役割や相談窓口等の想定について事務局案を説明。また、仙台市が事業者と何らかの手法で契約して運営や維持管理を行う一方、プラットフォームにはルールづくりやコーディネート機能を担うための体制が想定されることを説明。
一体的管理のための管理体制について、他都市の事例を紹介し、行政、事業者、プラットフォームがそれぞれ連携し、窓口を一本化してそれぞれの行政手続きを一本化できるような仕組みを引き続き検討していく旨を説明。

・（５）について、一体的な運営管理のため、事業者には大手や地元企業等の複数の事業者が関与する仕組みが必要とされることを説明。プラットフォームには、地域の多様な活動を取り込み、円滑な一体的利活用を進めていくための組織として、行政や事業者に加え、地域の様々なステークホルダーの参加が想定されること等を説明。
エリアマネジメントに向けた協議体制や手続きの一本化、事業者の業務範囲や運営体制などについては、サウンディング型市場調査での民間事業者からの意見等も踏まえ、社会実験などを通じて引き続き検討していく旨を説明。

・（６）について、事業コンセプトや事業手法などの議論のテーマごとに、現状の整理や今後の課題等を総括し説明。各テーマで一定程度の方向性が整理できたことから、次年度以降、社会実験の実施や民間事業者へのヒアリング等を通じて検討を行い、実現可能な手法を選択していくことを説明。

・（７）について、今後のスケジュールを説明。
令和４年度は行政主導で社会実験を行いながら公募条件の整理やプラットフォームの構成を検討。令和６年度以降にも実証実験を行いながら、事業者の公募条件をまとめ、令和７年度に公募選定を実施。令和８年度以降、事業者とともに新本庁舎の開業準備を進めながらプラットフォームの活動を続けていく予定。

３－４　ディスカッション・後半

馬場座長　事務局説明を振り返ると、まず、事務局からプラットフォームと事業者の定義について提示された。それぞれどのような役割を担うかは未だ検討中であり、今回の議論で決定までは至らないと思うが、これらが市民や企業、地元団体等にとって関わりやすい構成になっているのかどうか、といった視点でご議論いただきたい。
また、仙台市役所の組織としては、一体的利活用の各空間で所管部署が分かれているといった実態であり、一体的な利用には難しい面もあるかと思っているが、横断的に利用する際の課題等もディスカッションをしたいと考えている。
まず、プラットフォームと事業者について適切な構成になっているかどうかだが、いかがか。

岩間委員　窓口の一本化は賛成だが、一体的利活用の時に加え、小規模な使い方の時もこの窓口が機能する想定か、または、小規模な使い方の時には、通常どおり各管轄の窓口を利用する想定か。

事務局　この空間全体を一体的に使いたい時はこのような手法が良いと思っているが、個別の空間を使いたい時に従来どおり別々の部署が窓口を担ってしまうと、情報が集約されないままであり適切ではない。同じ窓口で管理することで、隣り合う空間同士でコラボできる、といったきっかけが生まれることも期待できるので、情報の一元化は必要と考える。手法として窓口を一本化するのか、予約システムのようなものを整備する形になるのかも含めて、今後も検討が必要と考える。

馬場座長　ニューヨークのブライアントパークでは一体的な利活用とカフェなどの個別の活用も含め、日常的にイベントが行われている。受付や管理をどのようにしているのかの参考になると思うので、コロナが収束した際は、実態を把握するため、運営組織の視察をしてみたらいかがか。

小島委員　今後の検討にあたっての視点ということでコメントする。このエリアの目指すべき姿としては、太田委員から意見があったが、民地と道路等の一体的な利活用、その空間のブランディングをいかに図るかだと思う。それら目指すべき姿を達成するためには、具体的に誰が運営するのかをしっかり認識すべき。それはプラットフォームなのか、事業者なのか、イベント主催者なのか、個人的には、ブランディングの観点からすると事業者が担うべきと考えるが、その部分を今後整理していくべき。

事務局　コンセプトの実現のためには、プラットフォームだと規模的にも大き過ぎ、市が主導してしまうと公民連携にならない。また、イベント主催者に背負わせるも難しいと認識している。大きな道筋をプラットフォームで整理して、事業者が実践していくべきという点はご意見のとおりという印象である。

小島委員　物販の出店と低層部での情報発信、どちらもプレイヤーの役割だと思っているが、イベント時には主催者がそれらを更に取りまとめるプレイヤーという立場になるのだと思う。その立場には全体調整の役割があるが、調整には空間全体の企画・調整の意味と、複数人の主体が入り乱れた際の整理・調整の意味があり、どちらの役割も担う可能性が出てくることも考えられる。まずは目指すべき姿を実現するための、あるべき組織体の検討が大事。

馬場座長　大小様々なイベントがこの空間に存在するはずなので、スケールの多様性といった視点もあってよいと思う。エリア全体を使ったイベントと細分化されたプレイヤーが行うイベントの両方をカバーできる表現とするのも良いのではないかと感じた。

大庭委員　プラットフォームと事業者との関係性が重要。プラットフォームが大きく、強くなりすぎると動きが悪くなる恐れがする。一体感をいかに構築していくかが今後の課題だと思う。

馬場座長　経験談から言うと、プラットフォームと事業者の定義は非常に重要である。プラットフォームは、多様な組織や市民が出たり入ったり、伸縮しながらもずっと存在する、互いに関わりたい人たちの集合体といったイメージである。一方、事業者も、仙台市との契約が発生する主体であって、移り変わっていく可能性がある。つまり、「変化しながらも存在し続けるのがプラットフォーム、移り変わっていくのが事業者」という違いがあると思う。その中で、プラットフォームの持続性・継続性を維持していく環境を整えるための議論が次年度以降必要。
また、もう１つ必要な概念としては、運営事業者に対する監視役を担う第三者機関的な組織の必要性。公共性を持ちえた事業者を選ぶことになるのだと思うが、民間事業者の経営本位の運営に走ることも考えられるため、適切にガバナンス（統治・管理）を発揮するための仕組みも必要である。

姥浦委員　個人的には、プラットフォームが事業主体の経営等をチェックする役目なのではと感じている。ただ、プラットフォームの事務局は誰なのかといえば事業者となる印象であり、そうなると事業者のチェックにならない。であれば、仙台市なのかという話になってくるので色々と複雑だと思う。
また、直感的には一本化の窓口をプラットフォームで担うのも難しいものと思うため、やはりこちらは事業者の役目かと思う。
この辺は具体の案をいくつか考えながら、社会実験等を行って固めていくイメージなのではないかと思う。

馬場座長　確かに、健全性のチェックを誰が担うかといった点は工夫が必要。事務局が提示した仮説のうち案２は、あまり現実的でないと感じており、今後検討していくということになるかと思うので、事業者とプラットフォームの関係性を複数案提示している事務局案は、現時点では納得がいく。この点が今後の検討の肝になってくるのだと思う。

太田委員　仙台市からこういった事業手法の提案があったという心意気には非常に感心する。この提案のように巨大なプラットフォームを構築し、一本化された窓口に、イベント主催者がやりたい提案を持ってくることができるという仕組みの弱点は、提案を考えるアイデア力のハードルも高くなってしまうことだと思う。ただ、このハードルの高さがあることで、仙台市の民間からやる気のある高いレベルの企画や人材が生まれてくる可能性を秘めていると感じた。全国の優秀なプランナーが、仙台市なら可能と考えて、続々と企画提案をしてくれるかもしれないし、世界的にも注目されるのではないかと思う。仙台市のチャレンジングなプラットフォームづくりは、そのための環境づくりとも言える大切な取り組みだと感じた。

馬場座長　仮に、このような事業スキームが成り立つと、市民や市内企業に留まらず、全国的にレベルの高いイベントや大きな民間事業者からの提案を誘発できるのでは、といった期待も持てる。同時に、それをどうコントロールしていくかという点も重要になってくる。

太田委員　主催者側に様々なことを委ねるだけでもなかなか難しいと思うが、プラットフォームを用意する側にも様々なことを考えられるチーム等が必要と感じる。また、法人だけでなく個人でも優れた事業提案が誘発できるような運営ができるとよい。

馬場座長　プラットフォームというと組織の集合体というイメージを持っていたが、今から数十年後を考えた時には、組織による協議だけでなくデジタルを活用した参加など、プラットフォームへの関わり方も多様になっていくと感じた。

小島委員　「（４）②事業者およびプラットフォームの定義」と、「（５）⑤事業手法（案）のまとめ」のイメージ図を見比べていると、コーディネート機能は、企画調整というよりは窓口運営の公平性や入り乱れた状態を整理するような調整機能しか想定していないように見受けられる。資料の記載には、太田委員の抱くようなプラットフォームの中に事業者も入れた新たな公民連携の形といった視点のイメージが言葉として欠けているような気がする。ハード面での運営・管理に寄っているような書きぶりだが、そこだけではなく、目指すべき姿の実現のために必要な議論も必要である。今回は問題提起させていただくので、今後、そういった議論も展開していってほしい。

馬場座長　小島委員からは、言わば管理型のプラットフォームではなく、タフで伸縮可能といった、新しいことが生まれるようなプラットフォームのあり方やマネジメントの検討が大事、といった事が提示されたものと感じた。

岩間委員　プラットフォームの解釈として、資料のように図式的に記載すると、監視する側とされる側、といった関係性の見方をしてしまいがち。実際の現場では、各主体の機能に大して差はなく類似していて、ただ公的な窓口が用意されているだけ、といったルールが敷かれているイメージ。
プラットフォームはおそらく地域団体の方などが多くなるのではないかという印象なので、管理・監視ばかりの関係性だと、なおさら利害関係やリスクばかり注視してしまい、近視眼的な視界になってしまうリスクがある。例えば、プラットフォーム自体を正式な組織とし、その組織に一般市民が賛同できたら会費を払う、といった形とし、各年度の事業等について、市民が発言や賛同できる仕組みを、審査の場の代わりとまではいかないが、お互いのコミュニケーションの場として活用してみるのもよいのでは。

馬場座長　新たな賛同の仕組みづくりも大変興味深い。
仙台市側からも、率直に「行政の視点で、このようなスキームが実現できそうか？」等を伺いたい。

浅野次長　昨年、勾当台・定禅寺通エリアビジョンを策定し、現在、定禅寺通を含めた周辺エリアの活性化や、駅前から当該エリアまでの回遊性を高めていく施策を進めている。定禅寺通における地元の方々の活動としては、定禅寺通の活性化のため、エリアマネジメントの取組みに関して検討中といった動きもあるが、それは低層部等の一体的利活用の取組みにも繋がる部分であり、互いの事業間の融合を図っていくべきと考える。そうしたときに、プラットフォームや事業者の部分でイベント開催に係る主催者との調整だけでなく、地域との調整役といった側面も必要になってくるものと思う。
また、実際の運営に関しては、事業者の運営が可能となるような収益面での検証も必要かと思う。

馬場座長　マクロ的な視点としてエリアごとに施策があり、それらとこの取り組みがどうつながっていくのかという点、また、低層部が接するエリアとの関係性をどう構築していくのかといった点が重要と感じた。併せて、費用面などでどのように事業を運営していくのかという視点も非常に大事だと考えており、次年度以降その点も検証等を進めていくべきと考える。

岩城理事　まず、「実現できそうか」という問いについては、今回こういった検討会を開き、様々な議論を頂いたので、その実現に向けて進めてまいりたい。検討会での議論を通じて感じるのは、ハードを整備して終了というわけではなく、それが第一歩であって、そこでどのようなアクティビティを実践するのかが重要であるという認識である。また、賑わうイベントを実施するだけではなく、様々な方が集まれるよう、市民広場から本庁舎側に学びや遊びの要素をグラデーションのように繋げるなどの工夫も必要とのご意見も頂いた。特に、一体を有効的に利用してもらうことでエリアの価値を高めていくための取り組みには、どのような公民連携の仕組みや仕掛けが必要か、といったテーマが重要であるものと認識している。
また、ハード面での管理に関してもご意見を頂いたが、空間毎に全く異なる事業者で管理することで、利用する市民にとって不便な対応となってしまうのは避けたいと考えている。一方、行政は組織や財産の所管、予算のあり方なども目的別となっているという事情もあるため、引き続き望ましい手法を検討していかなければならないものと思う。今回の検討会で、目指すべき姿をご議論いただいたので、その姿に近づけるための更なる仕掛けや工夫、望ましい体制について、次年度以降、全国の他都市の状況などを参考に考えていきたい。

馬場座長　目的ごとに設定された行政の組織を、いかに横に繋げて行くかが重要という視点でご意見を頂いた。この点は行政と民間双方で理解の精度を高めていく必要があると思う。実際に利活用を進めていくには様々な苦労があると聞いており、国内のモデルとなる自治体と運営事業者の双方に対して、何がボトルネックになっているのか等、リアルな意見を伺うことで精度が高まると考えられる。現場で苦労されている行政の声も次年度以降ヒアリングしていくのが良いと思う。

反畑次長　これまでの検討会の議論にあった、低層部で目指すべき姿の実現のためには、運営事業者の役割が大切である。特に、大きなイベント時を持ち込まれた際の調整だけでなく、圧倒的に日数の多い日常的な使い方をする時の役割が重要。そのような中で、日常的な情報発信や小規模なイベントと組み合わせ、事業者自らが企画運営し主体的に動くといった役割が大きくなってくると考えられる。そのようなことができれば、地域への賑わい波及・活性化に繋がるものと認識する。
そのためには、いかに事業者が動きやすい体制を整えるかだが、このエリアは他都市事例のように公園単体だけの活用ということではなく、公園や広場、道路、庁舎など管理者がそれぞれ異なる空間を一体的に活用するという違いがある。一体的利活用に際しての調整には、情報共有を図り、皆が同じ方向を向くことが重要と考えており、そこをプラットフォームの枠組みの中で整理し、事業者が動きやすい体制を作っていけるかが一番の課題である。
今後、プラットフォームと事業者間の役割等を整理する上で、事業者の負担ばかり大きくするのではなく、事業者による企画運営の動きを阻害しないような、身軽で動きやすくなる仕組みが必要。その際には、事業者が暴走しないよう、まちづくりの方向性の決定や適切に情報共有を図る、といったプラットフォームのサポート機能が適切に働くような仕組みを整えればうまく回るのではないかと思う。そのためにも、次年度以降の社会実験や他都市のメリデメの検証等により、役割分担のあり方の検討などを進め、仙台版の仕組みを構築していきたいと思う。

馬場座長　事業者の身軽さと、行政側のパブリックなパワーバランスをどうとるかといった点が重要ということをお話しいただいた。その点は同感であり、今後、社会実験でそのあたりを検討していくことになるのだと思う。

佐藤次長　多様なイベントが増えており、初めてイベントを行う方が申請を行う際の利便性の向上など、利用者が利用しやすい空間づくりのためには、窓口一本化が必要。ただ、一本化のためには、公平性の担保や窓口機能をプラットフォームと事業者のどちらが担うのかといった検討も不可欠。また、窓口で受け付けた後は、事業が円滑

に実現できるような体制や手続きのあり方も整理が必要であり、それが、このエリアの利用しやすさにも繋がるものと理解している。このような面も、今後の社会実験等で検証するのが望ましいと考えている。

馬場座長　窓口が常に市民や企業に開かれており、外部からアクセスしやすい形が必要だろうと感じた。また、窓口で受け付けた後のフローの整理や手続きが硬直化しないような仕組みも重要と認識した。

岩間委員　事業者側の負荷を上げる発言になるが、「窓口の一本化は必要」という議論の時に、議論の中心がイベント時のものになってしまっているように見受けられる。イベントとアクティビティは厳密には異なるものと認識している。プレイヤーとして活動する立場としては、イベントの時の議論ばかりではなく、日常的な使われ方も視野に入れるべきと考える。日常時にこの空間で単に時間を過ごしたいという方も一定数いると考えており、その際に話しかけたり、相談に乗ってくれるといった役割も運営事業者に担ってもらえるとありがたい。ここでイベントを 365 日やるというのはタフさも求められるし、そのような小さなアクティビティが日常的に自然に生まれて集まっていくほうがこのエリアの目指すべき姿に近づくと思う。

馬場座長　このエリアで「日常」をいかに作り、担保していくかが課題で、そのためには行政から事業者への権限委譲と、権限委譲を受けた事業者が何の責任を果たすのかといった議論が今後重要になってくるだろう。それが契約条件などにも関わってくるものと考える。

姥浦委員　今後、事業者と仙台市との間で何らかの契約関係が成立するとした場合には、何らかの評価の仕組みが必要と思っている。そのため、事業者へのチェック機能はそちらの枠組みで行うこととし、プラットフォームの役割とは分けるという考え方もあるかもしれないと思う。それによって、事業のアクセルの機能とブレーキの機能がうまく分けられることに繋がるのではないかと思う。
また、ページによって、つなぎ横丁の記載がある図面と無い図面があるため、統一いただきたい。

馬場座長　仙台市と事業者の契約の健全性を俯瞰するための枠組みに関する提案であったので、是非、来年度の議論に活用してほしい。

小島委員　組織が大きければ大きいほど、組織の上から下までの庁内調整が不十分になってしまう状況はよくある話。だからこそ、庁外だけでなく庁内にも意思表示していくことが重要であり、そのために組織としての窓口を作るのも一考。ただし、新たな組織を作るのであればスクラップアンドビルドが必要になるので、組織化するかは委ねることとしたいが、窓口の一本化という、この事業に対する市全体の覚悟を見せるためにも、今後も庁内調整をがんばってほしい。
それと、今後の公募に向けた検討を進める上では、行政の作成する仕様書に従って業務を進めるという、いわゆる仕様書発注ではなく性能発注のような、実現する目標を示して、あとは民間に委ねるといった事も考えられる。そのチェックをプラットフォームが担うという体制もとれるのではないか。民間の自由度を高めるための発注の視点を踏まえ、事業者向けの公募条件の整理などご検討いただきたい。

馬場座長　仕様書発注と性能発注の問題は、民間事業者にとっては切実な問題であって、この事業のようなクリエイティブな取り組みのためには、仕様書発注よりも性能発注に移行していくべきかもしれない。事務局は何か意見あるか。

事務局　皆さんのお話しを聞いて、一体的利活用の理想像を例えるならディズニーランドのようなイメージを思い浮かべた。あの場所には、来場した客が幸福な思いを経験で

きるように、といったビジョンがあり、色々なテーマパークが複合的に整備されている。また、そこで働くスタッフは自らのセクションだけではなく全体を案内できるようになっていたり、別々のエリアでありながら全体が繋がっていて、来場者の幸福を高められるような仕組みとなっている。

低層部や公園にあのようなテーマパークを作るという意味ではなく、ある共通のビジョンに向かって皆がまとまっていて、その姿を発信している部分が、低層部の目指すべき姿の考え方と似ていると考える。テーマパークの場合は開園・閉園時間が決まっているが、低層部は24時間稼働の空間である点が大きく異なっており、運営や維持管理が24時間であることによる課題もあると考えられる。

馬場座長　太田委員から頂いた「ビジョンオリエンテッドで進める」といったコメントに繋がるのではないかと感じた。

（馬場座長から設計ＪＶに意見を求めたが、通信状況が良くなかったため意見が聞こえなかった。）

事務局　本日いただいた意見は、設計ＪＶにも共有のうえ、設計業務の中でも適宜反映していくこととしたい。

４　その他（各委員あいさつ）

岩間委員　検討会での議論を通じて、この注目のエリアで日本初とも言えるような取り組みの検討の場に参加できてよかった。今後の社会実験等の取り組みの中で、一般の市民でもコメントできて、フィードバックし合えるよう、また、形式的なやり方でないコミュニケーションが生まれるような仕組みも取り入れられるよう、今後もご検討いただきたい。

姥浦委員　検討会当初に抽象的だった話題から具体的なテーマになってきて、非常に面白い議論の場に参加させていただいた。「チャレンジする市役所」という目標を掲げているなか、新しい市役所が完成する前から、かなりチャレンジなことが始まっているなと感じている。低層部の検討は今後さらに具体化していくものと思うが、今後の検討に期待している。

太田委員　本年度の会議が終わってしまうのが非常に寂しいが、用意された言葉をそのまま話すのではなく、自分の思いを自由に発言できてお互いに自由に議論し合えるこのような場は、行政の会議としてとても刺激的だったと思う。仙台市役所職員の皆様にとっても、私たち仙台市に想いのある民間の者にとっても、人生においてチャレンジできる環境があるというのは非常に恵まれていることだと感じている。何事にも「チャレンジ」できるという環境は、十分ビジョンになり得るものであり、世代を問わずにメッセージとして伝わる。そこを指針としてみんなで一つ一つ実現を目指して行けたら良いと感じた。

大庭委員　こういった場で専門家の方々の議論に参加し、濃い時間を過ごすことができたことは非常に貴重な経験であった。また、世界観を感じるテーマにも触れることができたと思う。今後、検討会で議論してきた、特に「仙台ならでは」とか、「ここでしか得られないような経験」とか、ここでしか実現できないことがあるという場所になることを期待している。商工会議所としても引き続き関わりがあるかと思うのでよろしくお願いしたい。

小島委員　このエリアの一体的利活用について１年間検討してきたが、民間の土地と公共の空間とでシームレスな空間を作っていくことで、利用する側としてもきっと使いやす

くなるはず。今後、敷地内広場と市民広場について設計を進めていくことになるかと思うが、各空間の設え方を検討していくうえで、是非、シームレスな空間となるよう検討いただきたい。
また、そのような検討の際、庁内の総合調整を進める上でも、担当課だけに負荷がかかると空中分解してしまうので、全庁でしっかり連携して進めていってほしい。

馬場座長　初回に大きなビジョンの提示があり、以降、各回では設計ＪＶからの魅力的な空間の提案、使われ方といったソフトの議論、最終回では事業スキームという具体の議論ができ、実りのある議論が出来たと思っている。空間にしろ、事業スキームにしろ、その描く風景にしろ、全て新たな取り組みになると考えており、全部がチャレンジなのだと思う。この検討を続けていくことが、仙台市庁舎だけでなくこのエリア全体の指針を示していくことになると思う。仙台市がここまで踏み込んで意思表示してくれたことは、尊敬に値する。この成果を止めないよう、次年度以降もどのような形になるかはわからないが、実証的なチャレンジとフィードバックを続け、リサーチも加えて精度を高めながら事業スキームの構築と公募要項の作成に繋げていってほしい。

５　閉　会

事務局　本日頂戴したご意見を含め、これまで委員の皆様にご議論いただいた内容を踏まえ、来年度以降の事業の実施に向けて引き続き検討していく。また、今年度の検討会での議論や検討状況等については、報告書として取りまとめる予定である。まずは事務局で素案を作成のうえ、各委員へ内容照会を行い、馬場座長に最終確認をお願いし、成案とさせていただきたいがいかがか。
（一同、異議なし）
完成後、委員の皆様に送付するので宜しくお願いしたい。

以上をもって第４回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会を閉会する。

以上